日本近代文学会・昭和文学会・社会文学会 合同国際研究集会　分科会スケジュール（2019年11月24日）

共立女子大学　3号館

個人発表	会場① 4階401	会場② 4階402	会場③ 4階403	会場④ 3階306	会場⑤ 4階410	会場⑥ 3階315	会場⑦ 3階314	会場⑧ 3階305
10:00～10:40	個人1 ティム・カワニシ・ヤング 「仮名垣魯文の『佐賀電信録』ー正史、稗史、軍記、そして歴史小説」	個人7 田笑萌 「「壁文芸」と「大衆化」の交点ー美術評論としての『一九二八年三月十五日』」	個人13 董春玲 「遠藤周作「青い小さな葡萄」における移動の表象」	個人19 宮田絵里 「「女」という規範をめぐってー高橋たか子「荒野」論」	パネル① 「井上ひさし―世界との対話」 （成田龍一、遠藤敦子、ロジャー・パルバース）	パネル③ 「文学から文学社会学へのシフト―表現・メディア・再話―」 （渡辺賢治、森覚、大西永昭）	パネル⑤ 「異言語圏での葛藤：田村俊子の軌跡から見る言語の身体性」 （山崎真紀子、山出裕子、宜野座菜央見、竹松良明）	パネル⑦ 「フィクション論で問い直す近代日本文学」 （高橋幸平、日高佳紀、久保昭博、服部徹也）
10:40～11:20	個人2 梁鎮輝 「幸田露伴『努力論』の描く「世態人情」について」	個人8 久利若糸 「小林多喜二「沼尻村」と革命青年の季節」	個人14 岩本知恵 「非／実在の影響力――安部公房「幽霊はここにいる」論」	個人20 石川真奈実 「『夜の寝覚』の現代受容について ―円地文子『やさしき夜の物語』、津島佑子『夜の光に追われて』を中心に」				
11:20～12:00	個人3 小橋玲治 「「女性登山家」野口幽香の紀行文」	個人9 神村和美 「転向の時代と鶴田知也―「ペンケル物語」をめぐる一考察―」	個人15 ヤニック・モフロワ 「「間テクスト性」と「内テクスト性」についての一考察―島尾敏雄の文学から」	個人21 藤田護 「津島佑子『黄金の夢の歌』における英雄叙事詩と記憶」				

二松学舎大学　1号館

個人発表	会場⑨ 4階402	会場⑩ 6階608	会場⑪ 11階1103	会場⑫ 8階807	会場⑬ 2階201	会場⑭ 2階202	会場⑮ 4階401	会場⑯ 4階403	会場⑰ 5階507	パネル発表
10:00～10:40	個人22 曾婷婷 「戦線での肉体負傷と銃後での精神構築―林芙美子『波濤』」	個人28 松田祥平 「一九二六年周辺における大衆文学概念の成立と探偵小説ジャンルとのかかわりをめぐって」	個人34 小田桐ジェイク 「自己宣伝としての無題序文―太宰治の作品集『思ひ出』を中心に」	個人40 桑原旅人 「萩原朔太郎『猫町』における「実在の形而上学」―ジル・ドゥルーズの「超越論的経験論」に依拠して」	パネル⑨ 「日本文学と動物――ジェンダー・肉食・震災」 （西原志保、村上克尚、江口真規、佐々木ポグナ）	パネル⑪ 「「境界の政治」を問う―キャノン・アイデンティティ・翻訳―」 （福尾晴香、陳晨、ジュリア・クラーク、沈正明、高榮蘭）	パネル⑬ 「方法としての比較文学」（ブルナ・ルカーシュ、大川内夏樹、小堀洋平、高野真理子）	パネル⑮ 「（文学における天皇制）の現在―2000年代以後の小説から問う―」 （岡英里奈、李承俊、長瀬海、キャーラ・パヴォーネ）	パネル⑰ 「中村古峡資料群を読む―近代日本の（異常心理）文化の再考に向けて」 （竹内瑞穂、大橋崇行、安斎順子、橋本明）	10:00～12:00
10:40～11:20	個人23 唐楚輝 「「日本の架け橋」から「祖国なき者」へ―『二つの祖国』主人公像に関する考察―」	個人29 張元 「一九三〇年代における日中探偵小説の交流―張慶霖「無名飛盗」を中心に」	個人35 王書瑋 「抑圧の重複― 「バン屋再襲撃」論」	個人41 母丹 「中国における宮沢賢治「注文の多い料理店」受容の始まり―田村俊子という読者をめぐって」						
11:20～12:00	個人24 解放 「引揚げ文学における語りと「闇（ダーク）」の問題」	個人30 苗鳳科 「80年代中国における日本社会派推理作品の受容について―『砂の器』と『人間の証明』から」	個人36 山根由美恵 「舞台「海辺のカフカ」に見る「歴史」表象―「海辺のカフカ」台本を手がかりに―」	個人42 菊地利奈 「Women's War Poetry'研究における日本女性詩人によるアジア太平洋戦争詩がしめる位置と意義―フェミニズムとインペリアリズムの視点から―」						
13:00～13:40	個人4 安藤史帆 「川上眉山『書記官』の温泉場――余暇空間に交錯する力学」	個人10 呉若どう 「二つの台湾像―豊島與志雄「台湾の姿態」と「光を育てる人びと」の比較を中心に」	個人16 木下弦 「阿佐田哲也「麻雀放浪記」論 ―一九六九年における〈戦後文学〉再登場の意義―」		パネル② 「普遍と土着を行き来する文学理論の用語―『日本の文学理論　アンソロジー』の英訳作業に見え隠れするもの―」 （ホルカ・イリナ、山本嘉孝、グレゴリー・ケズナジャット、大浦康介）	パネル④ 「様々なる五〇年間題―花田清輝とその周辺」 （鈴木規夫、池上善彦、渡部富哉、加藤哲郎）	パネル⑥ 「プロレタリア文化運動のモダニティ：脚色／共有される『太陽のない街』」 （村田裕和、和田崇、鴨川都美、木村政樹）	パネル⑧ 「避難所としての沖縄文学―ポスト新自由主義時代における文学のサバイバル」 （松田潤、佐久本佳奈、佐喜真彩）	個人25 熊澤真沙歩 「川端康成「禽獣」―〈白日夢〉から〈龍〉へ「映発」する〈光〉の意匠―」	個人31 李杰玲 「富士山の漢詩及び杜甫の「望岳」について」	個人37 菊間晴子 「大江健三郎作品における「犠牲」の表象―『万延元年のフットボール』、「核時代の森の隠遁者」の比較分析から」	個人43 ムジーブ・カーン 「近代日本文学にみる近代科学の影響：芥川竜之介、夏目漱石、森鷗外」	パネル⑩ 「戦後の日本文学における〈語りの伝承〉の主題―その背景と実践の検討」 （スポーレ・マーシャ、亀有碧、峰尾俊彦、西岡宇行）	パネル⑫ 「関係性の回路を読み直す―日本語文学研究における脱中心化の〈その先〉」 （奥村華子、市川遥、楊佳嘉、游書豆、飯田祐子）	パネル⑭ 「近代日本の怪異とナショナリズム」 （茂木謙之介、鈴木彩、井関大介、小松史生子）	パネル⑯ 「経験の連続と非連続―戦後日本文学における〈外地〉」 （光石亜由美、李文茹、小泉京美、木田隆文）	パネル⑱ 「日本の近現代文学における「居場所」とジェンダー」 （ザラディン・ロナルド、シュルツ・エベリン、ゴスマン・ヒラリア、矢澤美佐紀）	13:00～15:00
13:40～14:20	個人5 喜田智尊 「田山花袋「蒲団」の一元論―厭世・運命・力」	個人11 中川侑 「植民地朝鮮に生きた「半島人」―中島敦『虎狩』における〈民族・階級・空間〉」	個人17 サウット・キアラ 「対岸の「他者」に向けて：多和田葉子『献灯使』におけるポスト・アポカリプス的な空間の解体」						個人26 陳逸鳴 「川端康成「ゆくひと」における物語空間－世界は愛の喪失と響き合う－」	個人32 呂娜 「永井荷風と儒学の「仁」」	個人38 山根可菜子 「大江健三郎『同時代ゲーム』の女性表象とその問題点―脱構築されない男/女の二項対立―」	個人44 中村佑衣 「三島由紀夫（頼安もの）「怪物」論―被占領期における（占領）への眼差し」					
14:20～15:00	個人6 パク・ヨンソン 「夏目漱石『坑夫』論―「坑夫」としてあることの不可能性」	個人12 廣瀬陽一 「中野重治と朝鮮語―共産主義運動における民族的連帯をめぐって」	個人18 芳賀浩一 「エコクリティシズム：冷戦終結後の文化理論と21世紀の日本文学」						個人27 葉暁瑶 「満州体験と「京都」表象―川端康成『東海道』の射程」	個人33 曹雅潔 「「啾々吟」と「恋情」試論 ―松本清張の人生観と陽明学の関連から」	個人39 鹿安冉 「林京子の小説における上海日本人租界について ―林京子「黄砂」（1977）をめぐって」	個人45 坂口周 「現代文学と意志の問題―非形成的な「世界」へ向かって―」					